

特集 1

4年ぶりにいきいき健康フェアを開催しました。

副看護部長 石井優子

コロナ禍で開催出来なかった信州上田医療センターの恒例行事であった「いきいき健康フェア」を4年ぶりに開催しました。「いきいき健康フェアを開催するにあたり、来場される皆さんが当院に期待していることはなんだろう、どんなことを楽しみに来場していただけるだろうと考えました。前回開催時に人気だった骨密度や血管年齢測定を軸におき、その他の測定コーナー（体脂肪率・体力テスト）とよろず相談的に気軽に相談できる栄養相談・お薬相談、健康相談などの相談コーナー、地域の人々が知っておくと役立つ一次救命処置方法（BLS）の体験コーナーを準備することにしました。

そして、6月17日（土）イオンスタイル上田で「いきいき健康フェア」当日を迎えました。お子さんから高齢の方まで97名もの地域の皆さんに参加して頂きました。いきいき健康フェアでの1番人気は骨密度測定でほとんどの方が測定してお帰りになりました。2番人気は血管年齢測定で、測定結果をみてはご家族の皆さんで一喜一憂している姿が印象的でした。

相談コーナーでは、体脂肪率の測定結果より食事のとり方などの指導を真剣に聞いていました。健康相談では、当院の優しいベテラン医師へ普段は聞けない相談をされていました。研修医の医師と一緒に行った一次救命処置方法（BLS）体験では、「こんなに大変だなんて思っていなかった」と話しながら胸骨圧迫法を実施している姿がありました。来場者の皆さんからは、「（骨密度測定や血管年齢測定など）普段では計測できないものを測定できて良かった」「思いがけず医師に相談することができて良かった」「今回のような催しを毎年行ってほしい」などの嬉しいご意見を頂きました。

今回の開催にあたり、イオンスタイル上田で勤務されている職員の皆さん方には、ご協力いただき感謝申し上げます。次年度もまた「いきいき健康フェア」を開催し、地域の皆さんと触れ合っていきたいと思えます。



特集 2

上田祇園祭に参加しました

副看護部長 古田博子

「エイサー」「わっしょい」「エイサー」と夕方まだカンカン照りの蒸し蒸しした湿度の中、新田地区のみなさんの活気、外の熱気、賑やかな自分の気持ちの高揚感も相成ってワクワクドキドキしながら女神輿を担ぎました。

今回、新田自治会からのご好意により上田祇園祭りの御神輿の担ぎ手の一員として参加させていただきました。

私は、コロナ禍における緊急事態宣言が出ている間「やりたいことリスト」を作成しており、そうすることで心に抱えていたストレスを解消していました。

あらためてリストを見返すと、春のお花見から始まり、みんなでお食事会、映画鑑賞、家の片付けとすぐできることまでもツラツラと書きつづっています。その中に「お祭りに行く」という一行がありました。自分が九州出身ということからか、博多祇園山笠、博多どんたく、長崎くんち、山鹿灯籠まつり、知覧ねぶた祭、南種子町ロケット祭と神輿や山車をはじめ、ステージイベントや夜の花火など華やかで盛大に盛り上がるお祭りも良いですが、町内会や子供会が行うこじんまりとしたものも好きで、太鼓の音や鈴の音色が聞こえると行きたくてうずうずします。また、仕事柄神奈川、東京、新潟、群馬、長野と異動の度にその地域で行われるお祭りには事あるごとに参加させていただいています。

各地のお祭りに参加して気がつくことは、子供の時は只々楽しいだけだったが、大人になって祭りという非日常的な空間を共有し、ともすれば薄れがちになる地域のみなさんと一体感を取り戻す事が出来る事です。

今回祭りの運営管理や進行を担う方々それぞれが自身の役割を全うし、最後に地域の方々からの感謝の言

葉をいただき私自身も涙が溢れて感動してしまいました。

大人に成長するとそのお祭りの意味や歴史、伝統、地域住民の方々の方々の次世代へ繋げる思い（伝承・継承）をひしひしと感じます。

今年の上田祇園祭は4年ぶりの開催となりました。上田祇園祭とは、上田城築城を祝うお祭りが起源と言われる伝統のあるもので、上田祇園祭地域の安全と疫病退散を願うお祭りです。今回新田自治会のお誘いを受け、信州上田医療センターの職員19名が新田自治会の御神輿に参加させていただき、男性9名は樽神輿、女性10名は女神輿のメンバーとしてみんなで協力し合い最後までやり切り貴重な経験をさせていただきました。祭りならではの人びとの熱気や匂いはその場にはないと体験できず、地域の絆を深め、人との結びつきを強くする祭りは、日本人にとってなくてはならない心のよりどころです。「祭りは生きがい!」「1年は祭りで始まり、祭りで終わる」と言う人も少なくないですが実際に祭りに参加したり、祭りを楽しむ人と触れ合うことは、日本人が大切にしてきたものを理解することにつながります。ぜひ多くの方に祭りの魅力を生で味わっていただきたいと思います。



地域医療連携室

地域医療連携室とは？

地域医療連携室は、地域の医療機関、介護福祉施設、訪問看護師などと連携をとりあい、切れ目のない医療を提供するための部門です。患者さんが安心して地域で生活できるように努めてまいります。



構成メンバー

医師	2名
看護師	12名
医療ソーシャルワーカー	6名
事務員	9名



地域医療連携室の主な業務

前方連携

- ・他の医療機関から紹介された患者さんの当院の外来予約をお取りします。また、かかりつけ医などへの外来予約の調整を行います。
- ・地域の医療機関からの依頼により、当院のCT・RI等の医療機器を共同利用しています。検査依頼の受付と検査結果の送付を行います。

退院支援

- ・当院は地域の急性期病院としての役割を担っています。病床数が限られていますので、急性期の治療が終了した時点で、退院もしくは転院していただくことになります。
- ・入院された早い時期から、退院後の療養先や社会資源の活用などについて患者さん、ご家族と一緒に考え、退院支援の看護師、医療ソーシャルワーカーが、地域の医療機関や在宅サービス事業所、保健所や行政との医療・介護・福祉の連携を図り、支援していきます。

入院支援

- ・患者さんご家族の皆様が安心して治療や検査を受け、快適な入院生活を送っていただくために、入院サポートセンターを設置しています。
- ・入院サポートセンターでは、入院、手術、検査に関する不安を少しでも解消していただくために、入院までの事前準備から入院生活、退院までの流れについてご案内しております。

がん相談

- ・がんの患者さんやそのご家族と悩みを一緒に考え、安心して治療が受けられるよう相談支援を行う部門を設けています。
- ・診断や治療について判断するところではありませんが、情報を提供して、一緒に考え不安を解消するためのお手伝いをしています。
- ・相談者のプライバシーはお守りし、相談内容については秘密を厳守します。

その他

- ・セカンドオピニオンの相談、ご予約
- ・医療費や生活費等、経済的問題に対する相談、福祉制度の活用など
- ・身寄りのない患者さん、複合的な社会的課題など
- ・就労支援

